

2019年度 春学期中間懇談会 アンケートへの回答

【講演者への質問】

■回答者

中村周平さん 総合政策科学研究科 D3

受けているサポート内容：授業補助・ストレッチ・トイレ介助

1.中村さんが障がいを負う以前と、大きく変わった考え方は何ですか？

障がいについてより身近に感じるようになりました。ケガをする前は、障害のある方は「自分たちとは違うのではないか」、「違う次元の人たちの話ではないか」と、自分とは全く関係の無い存在だと思っていました。ケガをして、体や環境は大きく変わってしまいましたが、中村周平という人間は何も変わっていませんでした。それを感じた時、健常者と障害者の違いって紙一重なのではないか、ただ障害が有るか無いかの違いだけではないかと思うようになりました。

2.24 時間テレビについてどのように感じていますか？

意図的に感動を作り出そうとしている節があり、その点についてはあまり好きではないと思います。ただ、誰かの行動に感動を覚えること自体は否定することではないですし、こういったアプローチも好きな人がいるのだからいいのでは・・・という感じです。

3.事故前と事故後の感じ方や見方が変わりましたか？

ケガをしてから、体調を崩すことも多く、以前より自由な時間も減ったと思います。だからこそ、今流れている時間は有限だとどこかで思うようにしています。と言いつつ、疲れて帰ってきたらダラダラしてしまいますが(笑)

4.例えばですが、本を借りたいなとか思われた際に、どうされていますか？

図書館に行って本を借ります。それ自体は、他の学生の方と変わらないと思います。ただ、今出川の図書館は段差が多く、その度に昇降機を使わないといけないのが大変です。また、本棚と本棚の間の通路も狭く、車イスで入るのにギリギリな感じです。

【パネラーへの質問】

■回答者

倉持拓明さん 理工学研究科 M2

主なサポート活動：PC 通訳

耕三寺華蓮さん 文化情報学研究科M2

主なサポート活動：手書きノートテイク・代筆

小澤早紀さん 文学部 4 年次生

主なサポート活動：ガイドヘルプ・授業補助・テキスト校正・

手書きノートテイク・代筆

1.皆さん、口を揃えて、会話して意見の共有が重要だとのことでしたが、コミュニケーションを取る上で、最大の壁は何でしょうか。

■倉持さん

「上手に正しく伝えられるだろうか」という不安だと思います。特にコミュニケーションの手段が限られている状況では、どうしても伝えられる情報量も減ってしまいます。そんなとき、伝える側の頑張りとともに、聞く側、受け止める側の歩み寄りが大切になると思います。「あなたの思いを受け止めます」という姿勢を見せたり、「伝わりました」と相手に応えたり。対話をする双方が協力して壁を乗り越えていきましょう。

■耕三寺さん

私にとっての最大の壁は"自分自身"です。これは、一番最初に立ちほだかります。私は人見知りの上に、他の人が今どんな気持ちなのかがよく気になるので、初対面の時は特に、黙っていたのが本音です。しかしそれだとコミュニケーションなんて程遠いので、とりあえず笑って何かしら発するように頑張っています。脳は騙されやすいと言われるように、笑ってけば楽しい気分になり、相手も釣られて笑顔になればお互い嫌な気持ちにはなりにくいものです。もし、私のように人見知りで悩んでいる人がいるなら、"コミュニケーションを取らねば"、"意志疎通せねば"とあまりかたくなりすぎず、とりあえず笑って挨拶しとか、くらいからでも十分だと思います。きっとそのうち、自分なりの(相手に合わせた)コミュニケーションの取り方が分かるはずですよ。自分からシャッターを降ろさないように、気を付けてください。

■小澤さん

初めてサポート活動に入る時は、今まで話したことも顔を合わせたことすらないような、見ず知らずの初対面の学生さんと信頼関係を構築することからのスタートになりますし、利用学生さんも先輩だったり後輩学生だったりと様々なので、年齢的な隔たりを感じてなかなか話せないことも多くあると思います。ただ、そんなことは皆さんが大学に入られた当初に授業やサークルなどで経験されたことでしょうし、これまでも入学や入部といった色んなタイミングで乗り越えられてきたことなので、恐らく経験と時間がある程度は解決してくれると思います。

私が実際にサポート活動をしていて感じる最大の壁は、「聴く」ことです。「なんやそんなことか、当たり前やん。」って思われるかもしれませんが、相手の話を聴くということは、人とのコミュニケーションを図る上で必要不可欠であると同時に、私たちが思っている以上に難しいことでもあります。

「傾聴」という言葉もありますが、言い換えれば、「耳を傾ける」ということです。もちろん相手の話を遮ってまで自分の話をしようとする人なんていませんから（そう信じています笑）、みんな話を耳で聞いてはいるのですが、本当に何の先入観も思い込みもなく聴いているかという微妙なことが多いです。人にはそれぞれ多少なりともバイアスがかかっているもので、なんとなくの予想や思い込みで、話を聞き会話している間に、こちらからする問いかけが誘導尋問ようになってしまったり、相手の本心を聞き逃してしまったり。そうすると相手も本音を出しにくくなってしまいますし、コミュニケーションを上手くとることは難しくなります。相手との会話や本音トークは、こちらが受け入れ態勢バッチリの状態でこそ成り立つものだと思います。

また、相手のことを聴くといっても、お互い赤の他人ですからそう簡単に何もかもは話してもらえないかもしれません。出会った当初から超ド直球を投げってくれる人ばかりではありませんが、彼らの考えや思い、「もうちょっとこうしてくれたらいいんだけど」といった気持ちを知るためのヒントは会話のあちこちに転がっているはずですが、相手から言葉を引き出すためには、まずこちらから心を開いて自分のことについて話すことも必要かもしれませんが、とにかく相手が話しやすいような環境を整えること、それが聴くことだと思います。お説教のような長々しい文章になってしまいましたが、まとめると、どれだけ相手の言うことに耳を傾けられるか、そして相手の本心を聞（引）き出せるか、ここがコミュニケーションを取る上での最大の壁だと私は思っています。

2.PC 通訳を 1 時間半続けることは、疲労の面で難しくありませんか？

■倉持さん

確かに、PC 通訳に限らず長時間の講義サポートで集中を保つのは簡単なことではありません。過度の疲労を避けるためには、無理をしないこと、精神的にも体力的にも余裕を持つことが大事だと思います。何か失敗しても「反省はあとで！」とその場では前向きに考えたり、先生がお話を止めたときに一息ついたり、です。ただ、前後の講義や自分のスキル、サポート体制などの面でどうしても任された講義に不安があるという場合は、コーディネーターさんに相談することも忘れずに。